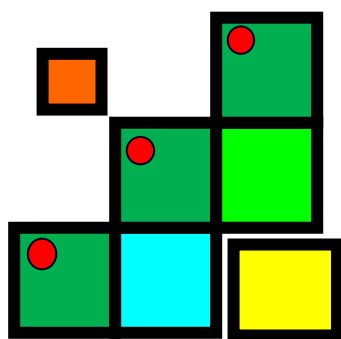


国臨協新潟地区会会報

(記念号)



2014年 1月発行
第70号

発行者 : 水島 美津子 (西新潟中央)
編集委員 : 中村 宏紀 (さいがた)
内藤 真由美 (西新潟中央)
菅井 めぐ美 (新潟)

と 鷺 朱



出雲崎の獅子舞

元西新潟中央病院 臨床検査技師長 目崎 芳朗 様 撮影



目次

- ・会長挨拶
- ・記念号の発刊に寄せて
- ・新潟地区会新旧理事新年の挨拶
- ・平成25年度新潟地区会定期総会研修会報告
- ・学術コーナー
- ・趣味のページ
- ・地区会員今年の目標or反省など一言
- ・今年度の予定

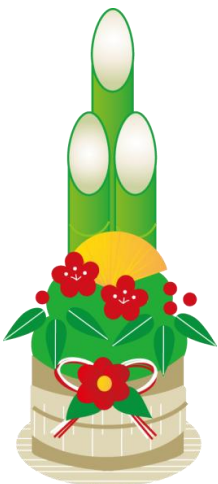
あけまして
おめでとう
ございます



会長挨拶



国立病院機構西新潟中央病院
臨床検査科
国臨協関信支部 新潟地区会
会長 水島 美津子



新年あけましておめでとうございます。新潟地区会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、弥彦山登山の後温泉で汗を流し、おいしい料理をいただきながら親睦を深めた交流会、さいがた医療センターで開催された定期総会・研修会では、会員多数の参加をいただき大盛況でした。新潟地区会の団結力と連携力を改めて感じました。私は30年余り会員として多くの諸先輩方にご指導いただきながら楽しく地区会活動に参加してまいりましたが、このような素晴らしい地区会の会長を拝命し、身に余る光栄と心から感謝申し上げます。

今年は、定期総会で承認された平成25年度活動計画に基づき、会員の意識改革の促進と質向上に資することを目標に掲げ、交流会と定期総会・研修会を計画立案してまいります。加えて国臨協関信支部共催の研修会または交流会も計画できればと考えております。地区会報「朱鷺っと」の発行は情報誌としての役割を継続し、3年連続準優勝の輝かしい成績を持つ関心支部学会地区会コーナーのポスターも、優秀賞を狙って行きたいと思います。中村副会長、菅井理事、内藤理事、岩間会計監査と役員一同一丸となって突進していく所存ですので、会員皆様の積極的な参加とご協力を宜しくお願い申し上げます。

私は毎年清水寺の本堂で発表されるその年の世相を表す「今年の漢字」が大好きです。今年はどんな漢字が選ばれるかと大変楽しみにしています。2011年は「絆」でした。震災で多くを失い、家族や友人といった身近でかけがえのない人達に対する「絆」を改めて感じ、心を繋げ勇気や希望を得た年、2012年は「金」でした。ロンドンオリンピックでは過去最多のメダルラッシュがあり、また山中先生のノーベル賞受賞と喜びに湧いた年、そして昨年は記憶に新しい「輪」でした。東京オリンピック招致の成功や東北楽天ゴールデンイーグルスが優勝し東北の人々に歓喜の輪、また各地で多発する災害に国内外からの支援の輪、いずれも大きな感動を受けた「今年の漢字」でした。2014年はどのような出来事が起こり、そして「今年の漢字」は？ まだ一年がスタートしたばかりですが、想像を巡らしながら、ワクワクできる年になればと願っています。最後に皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。



記念号の発刊に寄せて

国立病院機構千葉医療センター
臨床検査技師長 永井正樹

新年明けましておめでとうございます。国臨協新潟地区会の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

この度新潟地区会の会報である「朱鷺つと」が新年号と記念すべき第70号の合併号を迎えるということで、水島会長から原稿依頼をいただきました。私も平成17年4月から1年9カ月間、新潟地区会の会員としてみなさんと一緒に活動させていただいたので、このような機会をいただき、大変嬉しく思うと同時に、心からお祝いを申し上げます。

当時を思い起こしますと、新潟地区のみなさんは地元にお住まいの方が多く、赴任中は大変優しくいただきました。それまで東京のコンクリートジャングルの中で仕事をしていた私にとって、聞くもの見るものすべてがとても新鮮でした。生活面でも単身赴任を経験させていただき、改めて家族のありがたさや大切さを痛感させられ、非常に貴重な経験をさせていただきました。また、新潟という土地柄からでしょうか、みなさん非常に気持ちが温かくて、しかも仕事においても非常に情熱的な方が多かったと記憶しています。

さて、臨床検査技師の職域も一つの転換点を迎えていると思います。これからは今まで以上に患者さんの近くで仕事をするべきですし、医療職間でもさらに1歩踏み込んだ取り組みが必要であると思います。是非とも既成概念にとらわれることなく、検査室の外で活躍できる場を模索して下さい。

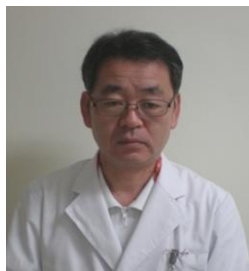
新潟地区会は距離的に離れているので、首都圏と比較して様々なご負担をおかけしていると思いますが、みなさんのお力が必要な場面も多々ありますので、組織の一員として臨床検査技師の地位向上にご尽力をいただければ大変ありがたいと思います。

最後に新潟地区会の益々の発展と会員みなさんのご多幸を心から祈念して、記念号発刊のご挨拶とさせていただきます。





新潟地区会新旧理事新年のご挨拶



国立病院機構新潟病院
臨床検査科
国臨協関信支部 新潟地区会
前会長 桑村 良隆

赴任してきた年は大雪だったらしく道路脇には除雪した雪が山のように積まれておりこれから数年この地が私の仕事場なのかなと思いながら検査室に出向き前技師長と業務の引き継ぎが終了した最後に一言「地区会会長」担当だから・・・！！。あれから二期皆様のご協力により無事任期を終えることができ感謝申し上げます。

会員の相互交流と親睦を図るため交流会を企画し「そば打ち体験」と「弥彦山の散策」を計画。関信支部学会地区会ポスターでは3年連続の準優勝。地区会会報誌「朱鷺っ」との発行は新人紹介、学会抄録、会員の趣味等を掲載し身近でホットな内容ある会報誌を発刊出来たと信じております。研修会では「東日本大震災後のエコノミークラス症候群予防検診経過とイタリア北部地震の調査結果」について新潟大学呼吸循環外科 榛沢和彦先生、「今後の輸血検査の展望」新潟赤十字 血液センター 瀬下 敏先生に講演いただきました。リアルタイムにトピックス的内容で会員の皆様には学術的に少しは情報提供出来たかなと考えております。会報誌発行、交流会、研修会開催など過ぎてしまえば全てが思い出として記録されていますし記憶にも残っております。企画を立案しそれを実行するには準備が大変です。次年度の役員の方々にはエールを送り、会報誌の執筆、交流会、総会・研修会等地区会活動にご協力・参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げ挨拶とさせていただきます。



国立病院機構西新潟中央病院
臨床検査科
国臨協関信支部 新潟地区会
新理事 内藤 真由美

新年明けましておめでとうございます。
会員の皆様においてはお健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年度より新潟地区会の理事を務めさせていただく、西新潟中央病院の内藤です。

地区会理事の一員として、皆様からのご要望を積極的に取り入れ活発な活動ができるように努力していきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

簡単ではありますが、今後の新潟地区会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしまして新年のあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。



国立病院機構西新潟中央病院
臨床検査科
国臨協関信支部 新潟地区会
前理事 霜田 由美子

新年明けましておめでとうございます。新潟地区会会員の皆さまにおかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の総会をもちまして地区会理事を退任する事になりました。初めての理事で何もわからずご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力ご支援のおかげで、2年間の会計を無事終えることができました。心より感謝申し上げます。理事を経験させていただいたことで、これからの総会や交流会への参加の意識が変わり、とても良い経験となりました。

今後とも地区会などでお世話になりますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



平成25年度新潟地区会定期総会研修会報告

～「第33回新潟地区会研修会」を聴講して～



国立病院機構
新潟病院 臨床検査科
南雲 伸夫 技師

年末年始は神様も忙しいらしくなかなか執筆の神が下りてこない。それに加え年々物忘れの速度が早くなり当日の事がなかなか思い出せず、原稿を前に茫然としております。

とまあ、そんな近況はさておき平成24年11月23日(土)、国立病院機構さいがた医療センターにて第33回国臨協関信支部新潟地区会定期総会・研修会が開催されました。

来賓に上條臨床検査専門職、関信支部からは野田副支部長、平原理事、新潟県赤十字血液センター学術課より瀬下先生にご出席を賜りました。

研修会では、新潟県赤十字血液センター学術課の瀬下先生と上條臨床検査専門職よりご講演をいただきました。

はじめに瀬下先生より「今後の輸血検査の展望」と題して輸血の副作用や感染症のリスクの問題、はたまた今話題のiPS細胞の輸血分野での今後の展望についてiPS細胞の基礎知識も含め詳しくご講演いただきました。なかでも印象に残ったのが献血の現状のお話でした。2003年から2012年の10年間で10代、20代の献血者は約35%も減少し、今現在主に献血を支えているのは40代～60代、まさに献血の世界も高齢化と言った処でしょうか。血液センターでは献血は16才～69才まで可能だそうです、この状況でいくと2027年には約100万人の血液がたりなくなる！？試算になるとの事でした。そこで今この救世主としてiPS細胞を用いたO型Rh(－)のユニバーサル赤血球の研究、開発が進められているそうです。これが実現すれば型合わせ不要で、すぐ現場に供給可能なものになるそうで、普段あまり輸血検査に携わる事のない私などにとっては休日当番の心強い味方に成ること間違いなさそうですがその実現はまだ少し先のことの様です。



瀬下先生におかれましては日頃より安全な血液を安定供給するということは並大抵なご苦勞ではない事と思われませんが、その御尽力に敬意を表するとともに今後もさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

毎年、健康診断で引っかかる様な素性の血液ですが輸血はダメでも血液製剤の原料くらいにはなるかもしれません。今度機会があったら献血に行ってみようと思います。

次に「臨床検査部門の現状と課題」と題して上條臨床検査専門職よりNHOの概要と運営方針、精度管理と試薬共同購入の経過報告、認定試験の取得状況など資料を基にわかりやすく講演していただきました。施行後3年を迎える主任技師等任用候補選考をはじめ人材育成(キャリアパス)では、職員ひとりひとりの更なる意識改革の必要性・重要性を感じ身の引き締まる思いでした。

最後になりましたが、忙しい中ご講演をいただきました瀬下先生、上條臨床検査専門職、ならびにご出席いただきました野口副支部長、平原理事、また、新潟地区会定期総会・研修会開催にあたり御尽力いただきました、さいがた医療センタースタッフ、地区会役員の皆様には心より御礼申し上げます。





学術コーナー

今回は西新潟中央病院 古江主任が第三回まさご集團会総会(院内学術発表会)で発表した研究結果を掲載しました。

「当院におけるPCT(プロカルシトニン)についての調査」

国立病院機構

西新潟中央病院 臨床検査科

古江 裕志 主任技師

【目的】

PCT(プロカルシトニン)は、敗血症の診断・重症度判定の検査として迅速性の優れた比較的新しい検査法である。一方、血液培養検査は、敗血症・菌血症の診断・治療のために起炎菌を検出する重要な検査法であるが、最短でも1~2日間を要し迅速性に乏しい。当院におけるPCTの結果により敗血症の重症度をまとめると共に2法の有用性を比較した。

【対象】

2012年11月から2013年10月までの1年間に当院で実施されたPCT230例及び血液培養検査(同日複数セット依頼を除く)94例を対象とした。(PCTと血液培養検査の同時測定例19例を含む)

【結果】

PCT230例中、陽性($\geq 0.5\text{ng/mL}$)は、62例(27.0%)であった。62例中、細菌性敗血症の鑑別診断の指標となる $0.5\sim 2.0\text{ng/mL}$ 未満は、39例(62.9%)、重症敗血症の指標となる $2.0\sim 10.0\text{ng/mL}$ 未満は20例(32.3%)、ショックなどを伴う重篤な敗血症の指標となる $\geq 10\text{ng/mL}$ は3例(4.8%)であった。

血液培養94例中、発育陽性は、19例(20.2%)であった。単独陽性例は、11例(11.7%)、同時測定陽性例は、8例(8.5%)であった。

2法同時測定例のPCT値は全例陽性であり、培養陽性例は8例(42.1%)、陰性11例(57.8%)であった。陽性例での内訳は、 $0.5\sim 2.0\text{ng/mL}$ 未満:2例(25.0%、創部感染1例・CVカテ感染1例)、 $2.0\sim 10.0\text{ng/mL}$ 未満:4例(50.0%、尿路感染2例・感染経路不明1例・採血時汚染1例)、 $\geq 10\text{ng/mL}$:2例(25.0%、尿路感染1例・感染経路不明1例)であった。培養陽性日数は、平均2.75日(1~7日)であった。培養陰性11例については、 $0.5\sim 2.0\text{ng/mL}$ 未満:7例(63.6%)、 $2.0\sim 10.0\text{ng/mL}$ 未満:3例(27.2%)、 $\geq 10\text{ng/mL}$:1例(9.1%)であり、呼吸器感染疑いが5例、尿路感染疑いが4例、不明が2例であった。また、検査時の患者の状況は、3例が他院からの緊急搬送、8例は外来からの緊急入院であった。

【考察・まとめ】

全体での陽性率を比較するとPCTが27.0%、血液培養が20.2%と差は認められなかった。しかし、2法同時測定例において全例PCT陽性に対し、培養陽性率は57.9%で差を認めた。当院でのPCT検査対象者は、他院からの転院が多く含まれており、他院での抗菌薬治療の影響により培養陰性となっている可能性が推測された。

敗血症治療において診断から治療開始までの時間は重要であり、PCTは迅速性が高く早期の治療介入に有用な検査法である。しかしながら、敗血症に特異的ではなく、起炎菌や感染経路を特定する事も出来ない。また、結果の解釈についても真菌感染症などは、細菌感染に比べ、値が優位に上昇しない等も考慮に入れ判定しなくてはならない。一方、血液培養検査は、敗血症起炎菌の特定、抗菌薬の選定には必須であるが迅速性に問題がある。これらを踏まえ、早期の敗血症診断には、血液培養とPCTの同時測定を実施することが有用と考えられる。PCTの単独測定については、敗血症の重症度の鑑別、敗血症治療の経過観察(効果判定)、細菌感染の否定などに留めるべきある。しかし、当院の患者背景を考えると他院での抗菌薬治療例も多く、敗血症を疑う緊急入院などでは、PCTの単独測定もやむを得ないと考えられる。

当院における PCT(プロカルシトニン)についての調査

臨床検査科 微生物検査室
古江 裕志

PCT(プロカルシトニン)とは、

1. 細菌・真菌・寄生虫感染症に特異な血清マーカー
 2. 敗血症の重症度評価の指標
(重篤諸疾患患者のSIRS監視)
 3. ウイルス感染症との鑑別
(抗菌薬投与判断の指標)
- SIRS : 全身性炎症反応症候群
(Systemic inflammatory response syndrome)

【 目的 】

- 《 PCT(プロカルシトニン) 》
- ① 敗血症の診断・重症度判定の検査
 - ② 迅速性の優れた比較的新しい検査法
- 《 血液培養検査 》
- ① 敗血症・菌血症の診断・治療のために
起炎菌を検出する重要な検査法
 - ② 最短でも1~2日間を要し迅速性に乏しい。

当院における PCT の結果により敗血症の重症度をまとめると共に2法の有用性を比較した。

PCT(プロカルシトニン)の特徴

- ・ 116個のアミノ酸から成る分子量13kDaの蛋白
- ・ 正常時、カルシトニンの前駆体として甲状腺のC細胞で合成

(カルシトニン)

- ・ 甲状腺産生されるペプチドホルモンで血液中のCa濃度を調節する働きを持つ
- ・ 骨のCaの放出を抑制し、腸管のCa吸収を促進

高値を示す疾患

- ・ 全身性炎症反応を示す細菌感染症(腹膜炎、広範軟部組織感染症)
- ・ 敗血症
- ・ 多臓器機能不全症候群(MODS)
- ・ 全身性真菌感染症(candida, aspergillus)
- ・ 寄生虫感染症(malaria)
- ・ 急性呼吸窮迫症候群(ARDS)
- ・ 膵炎(胆管性)
- ・ 細菌性髄膜炎
- ・ 新生児敗血症
- ・ 大手術(食道切除術など)

低値を示す疾患

- ・ ウイルス感染症
- ・ 慢性全身性炎症(リウマチ関節炎、血管炎など)
- ・ 自己免疫疾患
- ・ 腫瘍
- ・ 局所限局細菌感染症など

細菌・真菌・寄生虫による重篤な感染症時



ウイルス感染症時



PCTの反応時間(CRPとの比較)

(時間)	反応時間	ピーク	半減期
PCT	2～3	10～	24～30
CRP	6	48	4～6

PCT測定キットについて

検査キット名	ブラームス PCT-Q
測定方法	イムノクロマト法(半定量法)
検査材料	血清
検査時間	30 分
陰性判定	0.5 ng/ml 未満
細菌性敗血症の鑑別診断のカットオフ値	0.5～2.0 ng/ml 未満 (1+)
敗血症(細菌性)重症度判定のカットオフ値	2.0～10.0 ng/ml 未満 (2+)
重症敗血症・敗血症ショックの可能性	10.0 ng/ml 以上 (3+)

診療点数比較

	実施料	判断料
PCT	D007-47 320点	144点
	総合計	464点
血液培養	D018-2 190点	150点
嫌気培養加算	120点	
合計	310点	
	総合計	460点
培養陽性時細菌薬剤感受性検査	D019-1～3 170～280点	
	総合計	630～740点

調査対象

期 間	2012 年11月～2013年10月
PCT	230 例
血液培養検査	94 例 (同日複数セット依頼を除く)
PCTと血液培養検査の同時測定例	19 例

PCT 230 例 詳細

	件数・陽性率
陽性(≥0.5ng/mL)	62 例 (27.0%)
細菌性敗血症の鑑別診断の指標 0.5～2.0 ng/mL 未満 (1+)	39 例 (62.9%)
重症敗血症の指標 2.0～10.0 ng/mL 未満 (2+)	20 例 (32.3%)
ショックなどを伴う 重篤な敗血症の指標 ≥10.0 ng/mL (3+)	3 例 (4.8%)

血液培養 94 例中

	件数・陽性率
発育陽性	19 例(20.2%)
単独陽性例 (血液培養の依頼のみ)	11 例(11.7%)
PCTとの同時測定陽性例	8 例(8.5%)
培養検出陽性率	57.9%

PCT・血液培養同時期測定 19 例中

菌の発育	陽性	陰性
	8 (42.1%)	11 (57.8%)
分離菌の詳細	分離数	
グラム陽性球菌	<i>S. aureus</i> (MSSA)	2
	CNS (MRS 1例を含む)	3
グラム陰性桿菌	<i>E. coli</i> (ESBL 1例を含む)	2
グラム陽性桿菌	<i>Propionibacterium acnes</i>	1
全例、PCT(1+)～(3+)の陽性		

PCT・血液培養(+) 8 例詳細

症例	診断名	予想感染経路	PCT	分離菌	陽性日数
1	骨折	創部感染	1+	MSSA	1
2	L K	C V カテ	1+	CNS	2
3	L K・膿胸	尿路感染	2+	MSSA	2
4	L K	尿路感染	2+	<i>E. coli</i>	1
5	結核	不明	2+	CNS MRS	1
6	COPD	不明	2+	GPR (汚染)	7
7	尿路感染(結石)	尿路感染	3+	<i>E. coli</i> ESBL	3
8	L K	不明	3+	CNS MRS	5

2 法同時測定 8 例での詳細

0.5 ～ 2.0 ng/mL未満 (1+)	2 例 (25.0%)	創部感染(1 例) CVカテ感染(1 例)
2.0 ～10.0ng/mL未満 (2+)	4 例 (50.0%)	尿路感染(2 例) 感染経路不明(1 例) 採血時汚染(1 例)
≥10.0 ng/mL (3+)	2 例 (25.0%)	尿路感染(1 例) 感染経路不明(1 例)
培養陽性日数	平均2.75日	1～7 日

2法同時測定 培養陰性 11 例詳細

0.5～2.0ng/mL未満(1+)	7 例(63.6%)
2.0～10.0ng/mL未満(2+)	3 例(27.2%)
≥10.0ng/mL (3+)	1 例(9.1%)
呼吸器感染疑い	5 例
尿路感染疑い	4 例
感染経路不明	2 例
他院からの緊急搬送	3 例
外来からの緊急入院	8 例

【 考察 】

- (1) 2法の陽性率の比較
PCT (27.0%) / 血液培養(20.2%)
- (2) 2法同時測定の比較
PCT全例陽性 / 血液培養陽性率(57.9%)
- (3) 血液培養偽陰性化(11例)の要因は、
他院からの紹介、緊急入院、抗菌薬治療後の
検査の可能性が高い
- (4) 血液培養の平均陽性日数 2.75日

【 まとめ 】

- ・ PCTは迅速性が高く早期の治療介入に有用情報を提供している。
- ・ 敗血症に特異的ではなく、起炎菌や感染経路を特定する事も出来ないため、偽陽性により診断を迷わす可能性が高い。
- ・ 血液培養の結果については、発育陽性までに時間を要するが、汚染等による偽陽性、抗菌薬治療の影響による偽陰性を考慮にいれる必要がある。
- ・ 血液培養検査は、敗血症起炎菌の特定、抗菌薬の選定には必須である。

- ・ 早期の敗血症診断には、血液培養とPCTの同時測定が有用

PCTの単独測定について

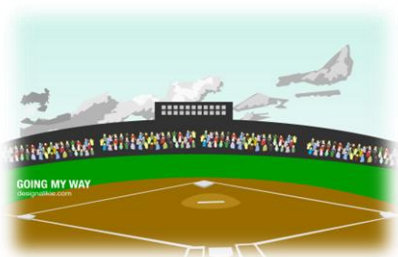
- ① 敗血症の重症度の鑑別
- ② 敗血症治療の経過観察(効果判定)
- ③ 細菌感染の否定などに留めるべき

しかし・・・

当院の患者背景を考えると他院での抗菌薬治療例も多く、敗血症を疑う緊急入院などでは、PCTの単独測定もやむを得ない。



趣味のページ



国立病院機構
新潟病院 臨床検査科
柳田 光利 主任技師

BEYOND THE MOUNTAIN・・・

「山をこえ、谷をこえ、宇宙の果てまで飛んで行け～！ かつとばせー、ひすみ～！」
「日本一のピッチング！ 世界一のピッチング！ メジャーが認めたピッチャー！」
「これから始まる比角の攻撃何点入るかわからない！ 1点・2点・3点・4点・5点・6点・7点・8点・9点・もう～10点！」

いずれも、柏崎市立比角小学校学童野球チーム「比角ゴールデンファイヤー」の掛け声応援歌である。

私が陸上部であったせいもあり、キャッチボールも碌にしてやらなかった息子（当時4年生）が野球をやりたいと言い出したのは、ちょうど一年半前であった。熱しやすく冷めやすいタイプで「どうせ、すぐに飽きて音を上げるだろう」と、当初私は高を括っていた。

私の認識不足もあったのだが、小学校の課外活動は基本的に部員の親が中心となっていくものであり、息子の所属チームも例外ではなかった。

季節は秋から冬に移り変わる頃で、私も丁度慌ただしい時期でもあり、度々あるチームからの依頼（練習の手伝いや送迎等）は、全て他の親に任せきりにしていた。「そんなに親が手助けをしなければならないのか？」と思う反面、内心は任せきりにしていることに対する後ろめたさとともに、野球が得意でない自分を隠したいという気持ちがあったのかもしれない。

年の瀬も迫ったある日、「小学生室内ティーボール大会」が柏崎市総合体育館で行われた。（ティーボールとは、投手が投げたボールを打つのではなく、バッティングティーと呼ばれる細長い台の上に置いたボールを打ちます。ルールはほぼ野球と同様ですが、柔らかい球を使用するため室内でも可能な競技です。）

大会初日、妻から「たまには観に行っておいたら・・・」と言われ、私はしぶしぶ足を運んだ。当日は4年生以下の部が行われ、市内小学校13チームが参加した。予選リーグは参加チームを4グループに分け、総当たり戦を行い各グループの上位2チームが決勝トーナメントに進める形式であった。息子の所属するチームは同じグループの2チームと対戦し、結果は一敗一分け、予選で敗退した。

私は、その光景を遠くで見ている。というよりも、チームの親達が一斉に懸命の声を張り上げて応援している中に入れずに、遠くで隠れるように見ていることしかできなかった。言いようのない自己嫌悪感とともに、息子に対する申し訳ない気持ちが込み上げてきて、無性に情けなくなった。



年が明けて、私は息子と連れ立って初めて練習に参加した。はじめは、何をしたらよいかかわからず隅で立っているだけであったが、あまりの体育館の寒さに耐え兼ね、気がつけば子供達の後について練習の真似事をしていた。

終了後、監督さんから「よく動いていましたね。何か運動をやっていましたか？」と声を掛けられた。

その後は、時間が空けばできるだけ練習に参加するようにした。徐々に監督やコーチ陣、他のお父さん方とも少しずつ打ち解けられるようになった。「野球は初心者で細かいルールもよく分かりません」と正直に打ち明けると、意外にも、監督やコーチの方も専門的な野球経験者ではなかった。練習メニューも監督を中心に、みんなで考えていると聞かされた。私も陸上部時代の練習メニューを紹介し、参考にして頂いた。息子もあの敗戦がよほど悔しかったらしく、練習も休まず参加し、家でも素振りなど自主的にするようになった。

柏崎学童野球連盟の理念には、以下の記述がある。

「学童と同じ位置に立ち、聞くこと、話すことで相互の理解をする。

技術の向上は相互で達成する。

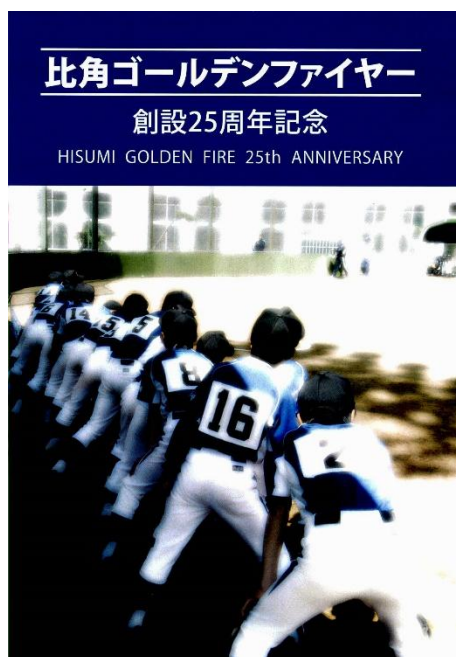
教える時、教えられる時は相互にある。」

一年間、私は学童野球を通じていろいろなことを教わった。野球自体の素晴らしさはもちろんであるが、子供達も含め、いろいろな人と出会えたことは本当に感謝している。また、その関わりの中で「学ぶ」ことの大切さを改めて感じた。知らない事・わからない事は、自分で素直に認めてみる。「初心者は初心者らしく」謙虚な気持ちで教えるを乞えば、きっと誰かが手を差し伸べてくれる。わからない事が沢山あるということは、むしろ「伸び代」が沢山あるということではないだろうか。

6年生とその親御さんは、昨年9月の大会を最後に引退となった。今年度の比角ゴールデンファイヤーは、各種学童大会で一度も優勝旗を手にすることはできなかった。しかし、試合や練習の中で子供達一人一人が大切なものを得たはずである。次は息子達が最上級生となる。息子は新監督から新チームのキャプテンに任命された。それとともに、私もコーチの一人として依頼された。

まだまだ弱小チームではあるが、この冬にみっちり練習をして、来シーズンは柏崎学童野球に「ゴールデンファイヤー旋風」を巻き起こしたいと密かに思っている。

「比角ゴールデンファイヤー」は昨年創立25周年を迎えた。四半世紀の間、その伝統と「ひすみっこ魂」は、ずっと受け継がれてきたものと信じている。今年も雪解けを終えた比角小学校のグラウンドには、きっと子供達の声がこだましているはずである。そう、ずっと歌い継がれてきたあの歌である。「山をこえ、谷をこえ、宇宙の果てまで飛んで行け～！ かつとばせー、ひすみ～！」





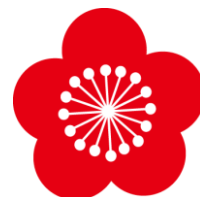
今年の目標or去年の反省 ～なんでも一言～

西新潟中央病院

- ・去年はフィットネスクラブに入会して、まだ一度も行っていないので今年を通して、体を動かしたい。
- 仕事面では去年より効率よく検鏡を心掛けたいです。(T・M)
- ・名実ともに新潟一のロックギタリストになる！(楽太郎)
- ・家の中、職場、車の中をきれいにする。なるべく歩くようにする(Y・S)
- ・今年は一魚一会を大切にする(釣り太郎)
- ・大穴を当てて、皆を焼肉に招待すること(馬太郎)
- ・仕事もプライベートも101%でいこう！！
- そのための処方箋は体を動かし、生き生きエイジングで毎日元気であること(K・T)
- ・去年はあまり車で遠出できなかったのが、今年は車で色んな所でドライブにいきたい。特に富山、長野方面へ(M・N)
- ・今年、人生の折り返し年?? 一年かけて人生の目標を立てたい。
- 仕事は、早く切り上げ効率的に。無理せず程ほどに。(H・F)

さいがた医療センター

- ・感謝の気持ちで禰を繋げたい 海の神
- ・Windows8を使いこなせるようになりたいです
- (去年: 杭州飯店の中華そばを食べる... 目標達成ならず) リリ子
- ・嫁に行く 初・夢子
- ・自転車ヒルクライム尾神岳攻略
- (去年: バイクは買えませんでした。保管場所がないです) チャリダー
- ・海外旅行代金を 『稼ぐ!!』
- (去年: 海外旅行に行く!! => 資金不足のため...) 一攫千金
- ・煙に喝 ..したい まるぼろ
- ・ミランの本田を観に行きたい MEVIUS



新潟病院

- ・Know your own faults before blaming others for theirs. Time flies
- ・動ける身体と 負けない心 ファイトー三発
- ・魚を食べる 肉好き
- ・「1. やるべきこと」「2. やれること」「3. やりたいこと」の実践。...ヨッシー
- ・メガネかけ 文字とばさずに 読みぬこう リンゴっこ
- ・まわりみて 自分みて 相手の気持ちに立って動こう にゃんたん



今年度のおもな活動予定

平成26年1月18日

5月中旬～下旬

5月下旬～6月上旬

6月下旬

9月13日

10月初旬～中旬

10月下旬

10月～11月

地区代表者会議 (水島会長出席)

第2回理事会 (新潟病院)

新潟地区交流会 (担当: 新潟病院)

朱鷺っと 第71号発行

関信支部学会地区会ポスター展示

第3回理事会 (新潟病院)

朱鷺っと 第72号発行

第34回新潟地区会定期総会・研修会
(担当: 西新潟中央病院)

編集後記

会員の皆さま あけましておめでとうございます。
表紙および随所に使用しています写真は元西新潟中央病院臨床検査技師長の目崎芳朗様よりいただいたものです。迫力のある獅子舞にお正月を感じさせられました。私は最近こまや竹とんぼをしてみました、全然出来ませんでした。家ではかるたをして楽しみました。皆さまのお正月はどんな遊びをしましたでしょうか。(M.S)